

2022年11月25日

各位

三井住友信託銀行株式会社

レコテック株式会社への出資について

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山 一也、以下「当社」)は、資源循環プラットフォームを構築するスタートアップ企業のレコテック株式会社(CEO:野崎 衛、以下「レコテック社」)に出資いたしましたのでお知らせします。

大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済システムにより、天然資源の枯渇リスク、気候変動問題、海洋プラスチックごみ問題等が深刻化しており、世界的に資源を有効活用する循環型経済、サーキュラー・エコノミーへの移行が課題となっています。とりわけ、廃プラスチックにおいては、資源として再利用されているリサイクル率が24%(※1)であり、改善が望まれています。

レコテック社は「ごみという概念のない、社会をつくる」を Vision に掲げ、資源(都市資源)の発生から回収運搬、リサイクルし製造業者へ提供する一連のプロセスについて一括管理可能な、独自の POOL システム(以下、本システム)を開発しました。本システムは下記3点を実現することにより資源循環に必要なプラットフォームを構築し、これまでごみとして捨てられてきた資源の循環利用を可能にしています。

- ① 分別された廃プラスチックなど市中にある資源(都市資源)の発生量や場所の把握・見える化
- ② 廃プラスチックの輸送にかかる物流効率や廃プラスチック再生時の工場稼働率の最適化
- ③ 資源の回収から製品までの過程を追跡(トレーサビリティ)

また、同社は本システムを利用して再生され、100%再生材であることが証明された POOL 樹脂の提供による再生資源活用にも注力しています。

当社は、脱炭素に資する事業や企業を含めた各種インフラ領域において、信託の専門性を活かした社会課題解決型の資金循環を実現していくため、2030年度までに累計5,000億円の投資を実施していきます。また、それを呼び水として機関投資家の資金を募り、2.5兆円の投資規模としていく計画であり、今般のレコテック社への出資はその一環として実施したものです。

レコテック社への出資を通じ POOL システムを活用した再生資源循環の拡大をサポートし、サーキュラー・エコノミーへの移行による環境・経済・社会の価値創出に貢献していきます。

(※1) 一般社団法人プラスチック利用協会“プラスチックリサイクルの基本知識 2022”より、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル率を合算した数値 <https://pwmi.or.jp/pdf/panf1.pdf>

以上